

食品苦情（理化学試験）に関する一考察

生活科学部

はじめに

近年，国民の大部分が農薬，食品添加物，環境汚染物質を中心に食の不安を感じており¹⁾，本市においても，市民から食品に対する様々な苦情が寄せられている。

そこで，平成 11～15 年度の 5 年間の食品苦情についてまとめたので報告する。

結 果

平成 11～15 年度の総試験件数は 287 件で，内容別では，異物混入，異味，異臭の順に多く，これらで全体の約 66% を占めていた。（表 1，図 1）
平成 12，13 年度は，異臭（消毒臭等），異物混入（プラスチック片，金属片，小骨等），異味（苦味

等）の苦情が多かった。これは，平成 12 年度に勃発した雪印乳業食中毒事件の影響と考えられる。

また，食品別では，麺類やパンなどの穀類・豆類とその加工品，次いで，乳製品とその加工品が多かった。（表 2，図 2）

なお，総試験項目数は 3,950 項目で，農薬等有害化学物質が最も多く，次いで，酸度等の乳・乳製品の規格基準項目，異味・異臭の原因と考えられる次亜塩素酸ナトリウム等，電子顕微鏡を使用した異物の同定の順であった。（表 3）

文 献

1) 平成 16 年版厚生労働白書，31

表 1 内容別苦情件数

年度	異物混入	異味	異臭	嘔吐・下痢	腐敗・変敗	かび	変色	その他	計
11	6	12	11	10	1	1	1	5	47
12	42	12	10	6	10	1	3	9	93
13	23	17	10	4	9	4	0	5	72
14	7	8	6	9	3	1	0	3	37
15	9	6	10	3	2	3	0	5	38
計	87	55	47	33	26	9	4	27	287
平均	17	11	9	7	5	2	1	5	57

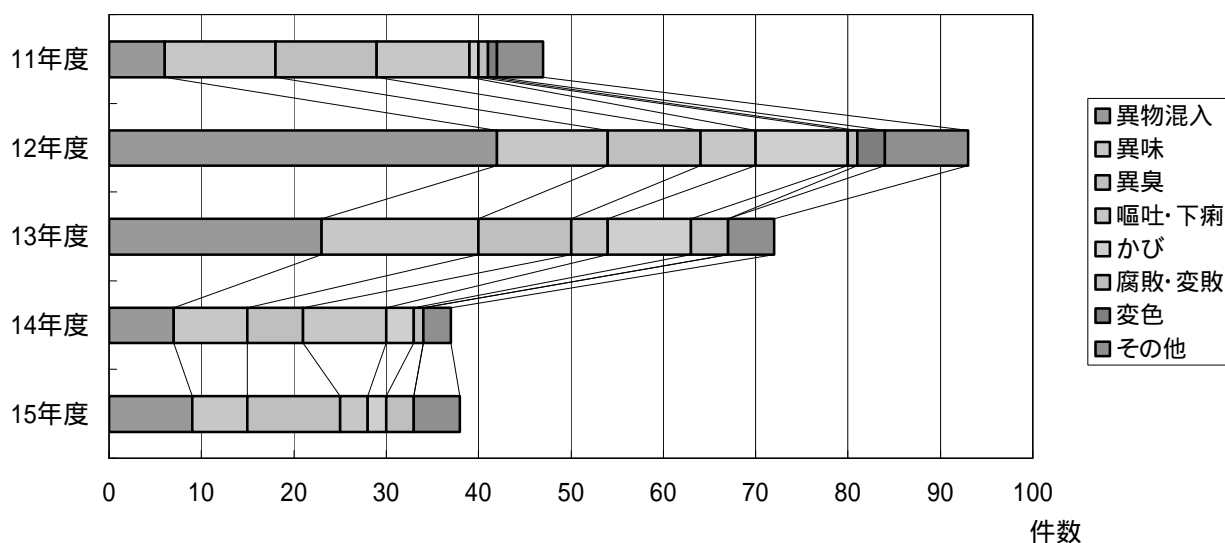


図 1 内容別苦情件数

表2 食品別苦情件数

区分	異物混入	異味	異臭	嘔吐・下痢	腐敗・変敗	かび	変色	その他	計
魚介類とその加工品	6	8	8	6	4	1	1	8	42
食肉・卵とその加工品	4	2	4	4	5	0	1	2	22
乳・乳製品とその加工品	15	13	6	2	6	0	0	1	43
穀類・豆類とその加工品	27	8	13	4	6	5	1	4	68
野菜・果実とその加工品	6	7	10	2	4	2	0	1	32
菓子類	14	2	2	3	1	1	0	3	26
清涼飲料水等	7	10	3	6	0	0	1	4	31
その他	8	5	1	5	0	0	0	4	23
計	87	55	47	33	26	9	4	27	287
平均	17	11	9	7	5	2	1	5	57

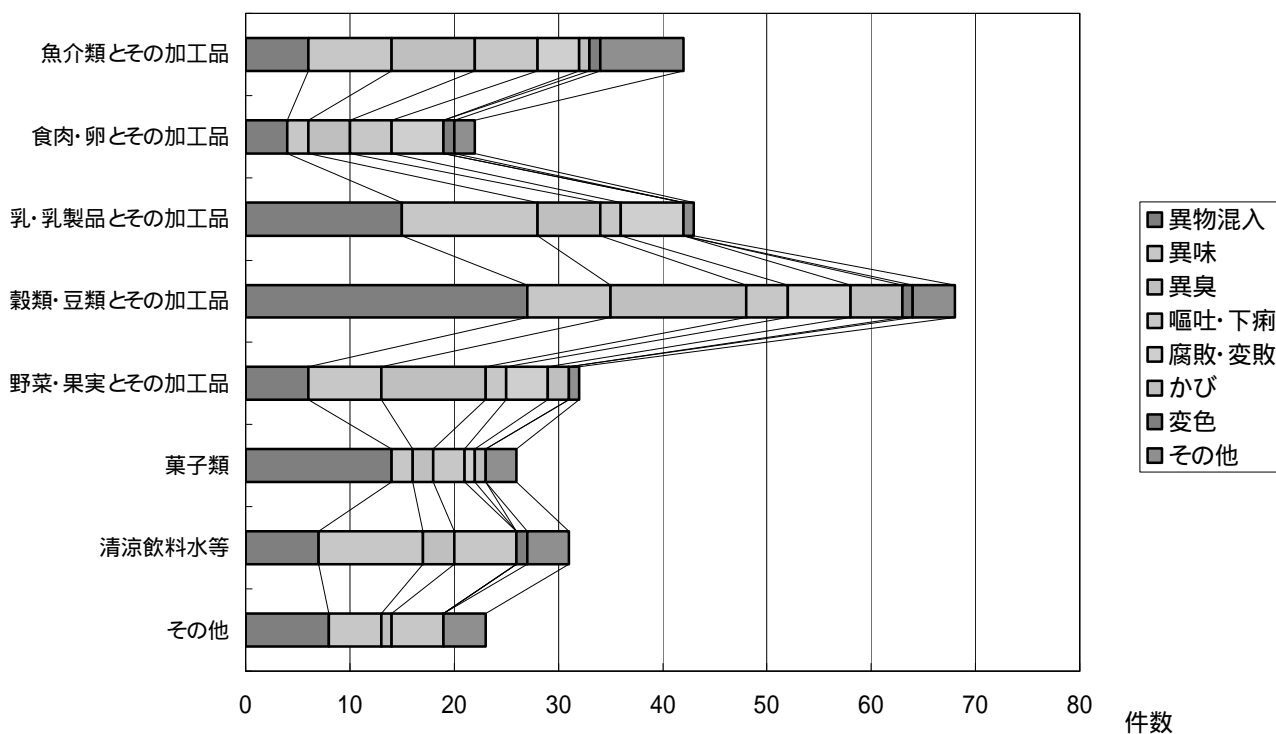


図2 食品別苦情件数

表3 試験項目別苦情件数

年度	件数	試験項目数						計
		農薬等有害 化学物質	乳・乳製品 規格等	次亜塩素酸 ナトリウム等	異物の同定	酸価・過酸化 物価等	その他	
11	47	825	266	157	26	27	33	1,334
12	93	672	47	23	66	41	89	938
13	72	186	169	49	40	45	31	520
14	37	152	161	5	18	35	23	394
15	38	529	147	11	47	13	17	764
計	287	2,364	790	245	197	161	193	3,950
平均	57	473	158	49	39	39	39	790